

2023年8月期 通期 決算説明資料

2023年11月21日 | 証券コード：9264

- 会社概要
- 2023年8月期通期連結業績
- 今後の成長戦略
- 2024年8月期通期連結業績見通し
- Appendix

会社概要

参考資料、その他

ポンプ・イクイップメント・エキスパート

Pump Equipment Expert

ポンプ装置の専門家

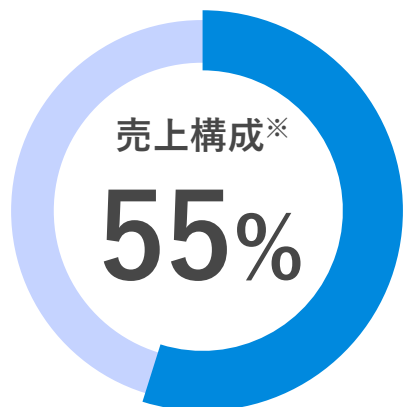
ポンプメーカー出身の2人の創業者が
ポンプ装置に特化した会社を目指したことに由来。
現在では、社会インフラを支えるプロフェッショナル集団として、
ひと・みず・くうきに関するあらゆる分野での成長を目指す。

会社名	ポエック株式会社 Puequ Co., LTD.
代表者	代表取締役会長 来山 哲二 代表取締役社長 松村 俊宏
所在地	広島県福山市南蔵王町2-1-12
事業内容	1. ポンプ、送風機、空調機、工場設備機器の販売 2. 機器類修理、保守点検、設計施工 3. 防災機器の販売 4. 産業設備機器の販売
資本金	1,615,676,880円（2023年8月現在）
設立	1989年（平成元年）1月25日
従業員数	68名／連結240名（2023年8月現在）
上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード 9264）
事業拠点	福山・東京・仙台・北陸・名古屋・大阪・岡山・広島・福岡・高松・松山

ひと・みず・くうきに関わるビジネスを展開

環境・エネルギー事業

環境・水処理機器の製造・販売・修理及びメンテナンス等技術サービス



取扱製品

環境関連機器

水処理機器（ポンプ類、攪拌機等）

環境改善機器

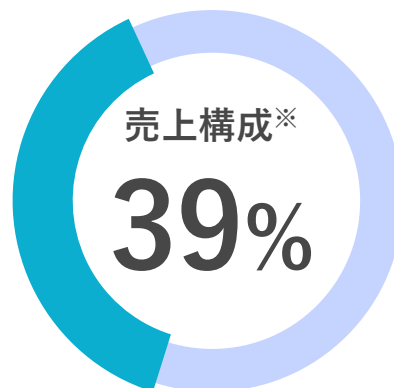
景観配慮型防潮壁（SEA WALL）、
オゾンガス発生装置、窒素ガス発生装置、
オゾン水製造装置、オゾン脱臭装置

エネルギー関連機器

プレート&シェル熱交換器

動力・重機等事業

船舶用機械及び部品、プラント関係機器及び
その他動力関係部品の製造・販売



取扱製品

船舶用機械及び部品

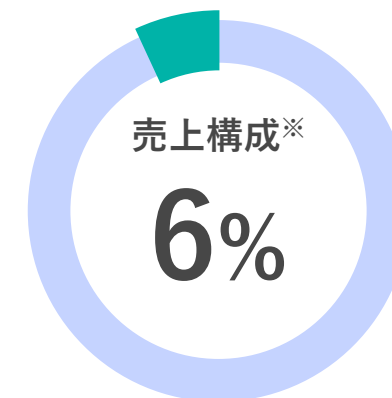
エンジン台板
小型精密部品（燃料噴射弁等）

プラント関係機器

ボイラー・圧力容器等

防災・安全事業

消火装置、その他消防機器の製造・販売・
設置装置の保守及びメンテナンス等技術サービス

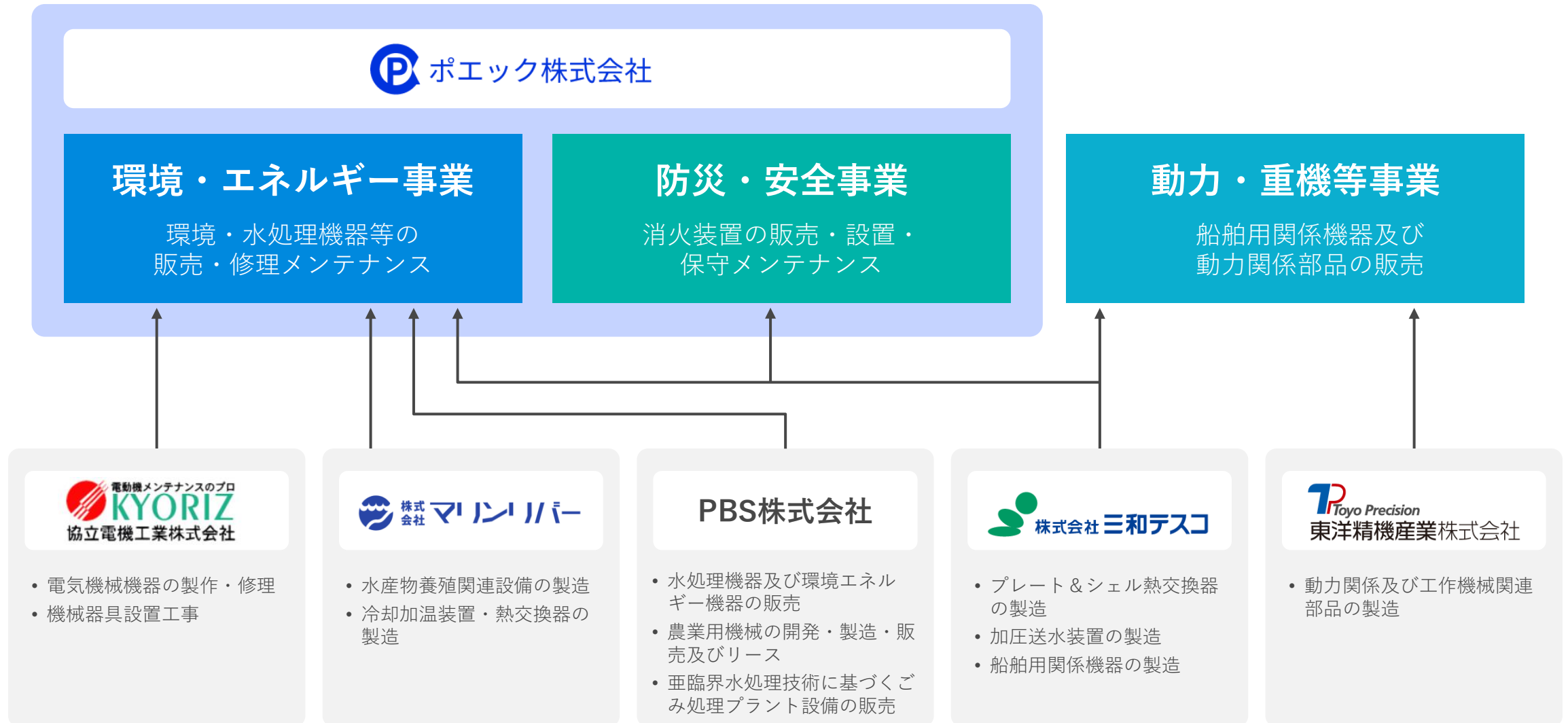


取扱製品

消防装置、その他消防機器

屋内・屋外消火栓
スプリンクラー消火設備用
加圧送水装置

当社と連結子会社 5 社でグループを構成

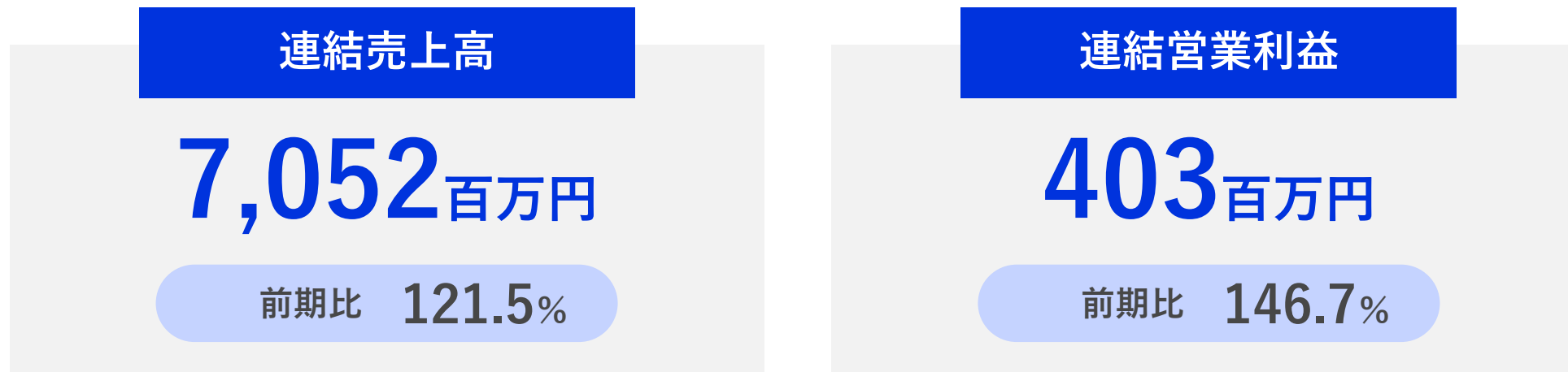


- 会社概要
- 2023年8月期通期連結業績
- 今後の成長戦略
- 2024年8月期通期連結業績見通し
- Appendix

会社概要

参考資料、その他

売上高・営業利益ともに、前期比2桁成長の大幅増収・増益



セグメント別売上高	環境・エネルギー事業	3,852百万円	前期比 121.0%
	動力・重機等事業	2,754百万円	前期比 124.0%
	防災・安全事業	445百万円	前期比 111.0%

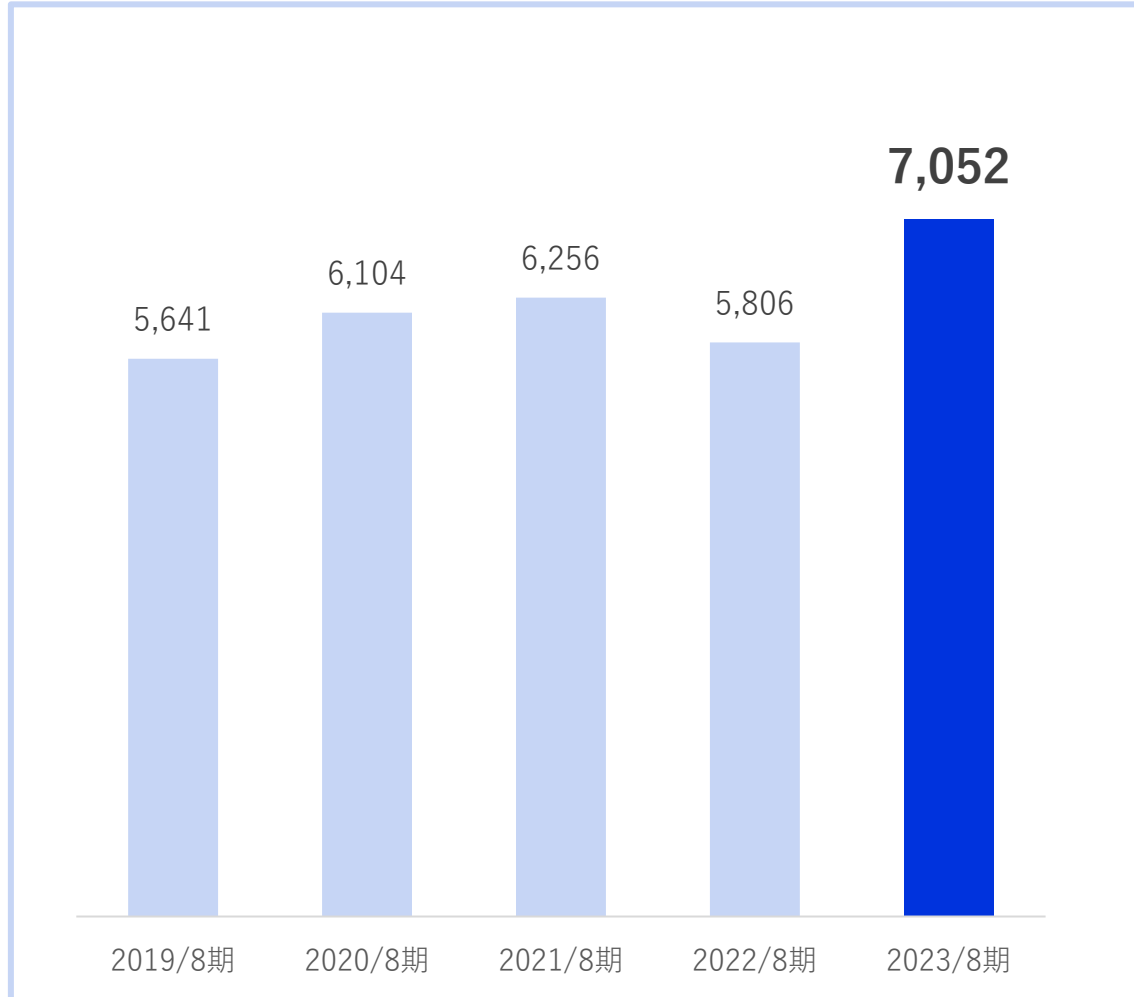
売上高・営業利益ともに上方修正した通期予想を上回り着地

	2022/8期 実績		2023/8期 実績		前期比		(参考)	
	金額	売上比率	金額	売上比率	増減額	増減率	期初予想 (2022/10/14公表)	修正予想 (2023/9/1 公表)
売上高	5,806	-	7,052	-	1,246	121.5%	6,276	6,980
売上総利益	1,351	23.3%	1,579	22.4%	228	116.8%	-	-
販管費	1,077	18.6%	1,176	16.7%	99	109.2%	-	-
営業利益	274	4.7%	403	5.7%	129	146.7%	265	360
経常利益	293	5.0%	419	6.0%	126	143.2%	265	382
当期純利益	△23	-	265	3.8%	288	-	141	230
1株当たり 当期純利益 (円)	△10.16	-	108.51	-	118.67	-	59.95	93.81

売上高・営業利益ともに過去最高を更新

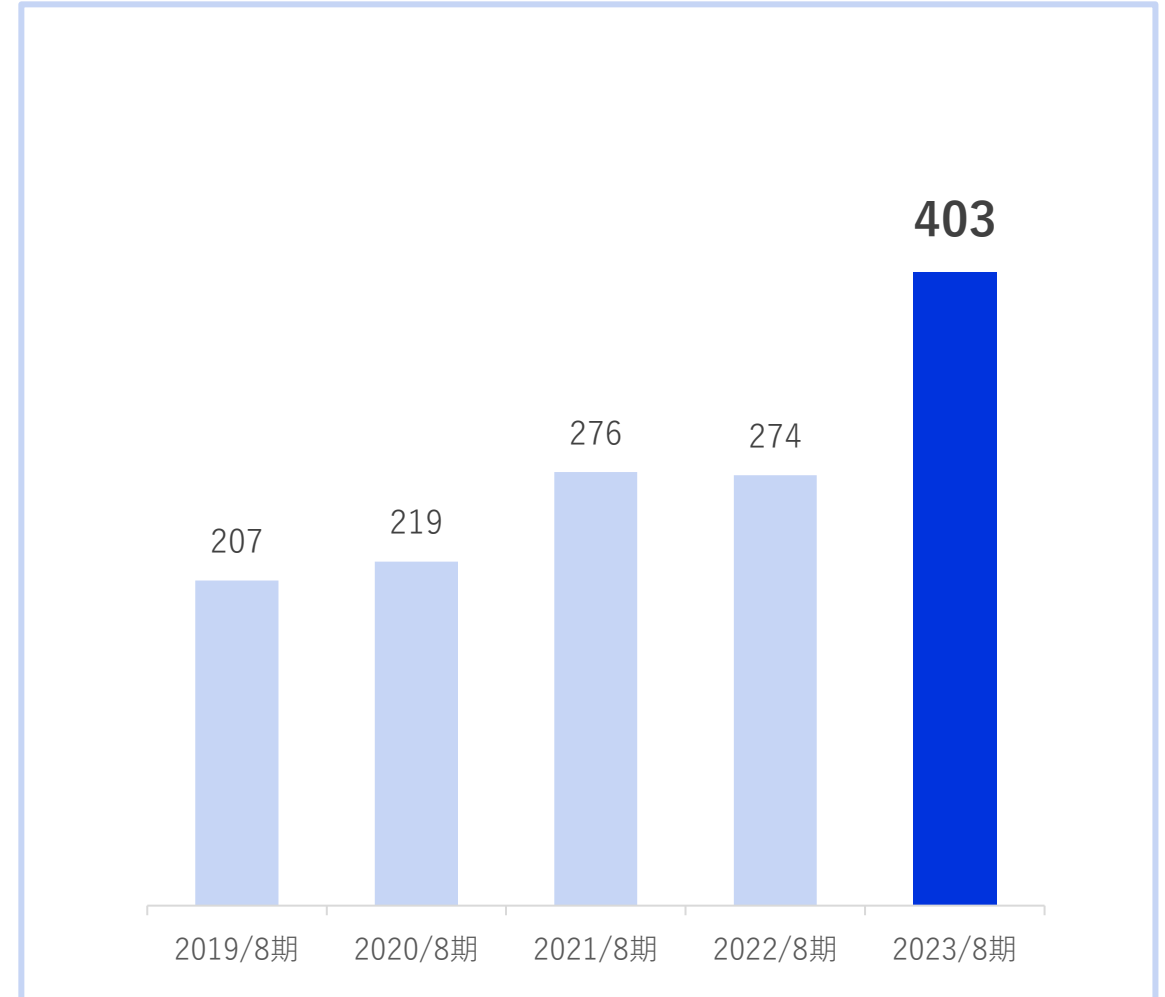
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



「環境・エネルギー事業」と「動力・重機等事業」が前期比大幅増収・増益

	2022/8期 実績	2023/8期 予想	2023/8期 実績	前期比	予想比
単位：百万円					
環境・エネルギー事業					
セグメント売上高	3,184	3,603	3,852	121.0%	106.9%
セグメント利益	135	-	217	160.6%	-
利益率	4.2%	-	5.6%	+1.4pt	-
動力・重機等事業					
セグメント売上高	2,220	2,384	2,754	124.0%	115.5%
セグメント利益	217	-	280	128.9%	-
利益率	9.8%	-	10.2%	+0.4pt	-
防災・安全事業					
セグメント売上高	401	288	445	111.0%	154.7%
セグメント利益	26	-	19	74.4%	-
利益率	6.6%	-	4.4%	-2.2pt	-

セグメント売上高

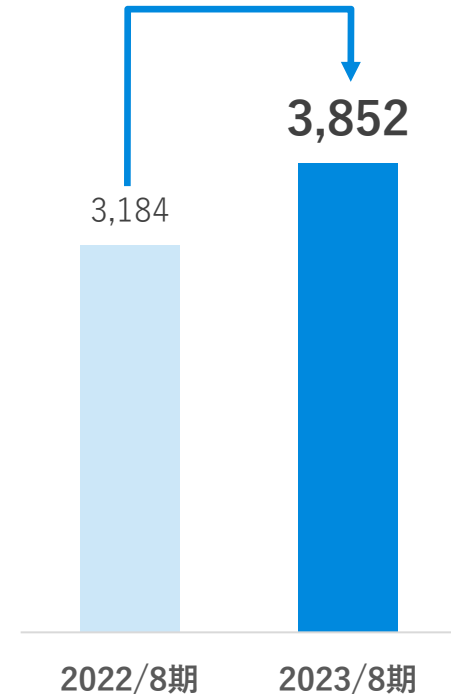
3,852百万円前期比 121.0%

セグメント利益

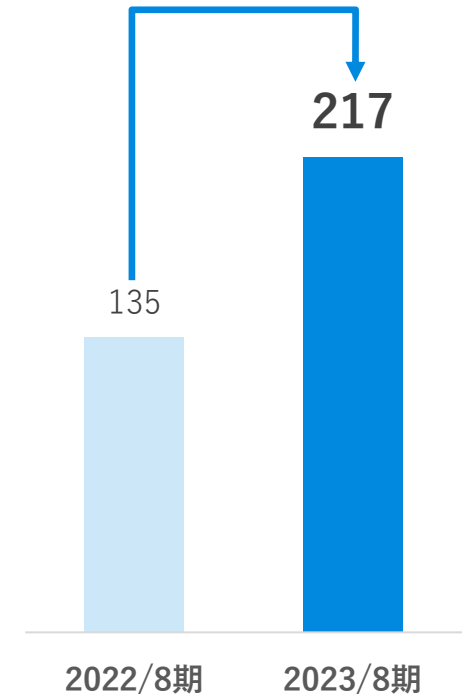
217百万円前期比 160.6%

- 廃棄物処理およびリサイクル技術へ投資する企業が増加したことにより、プラント向けポンプや海水処理ポンプなどの**環境関連機器の受注量及び受注件数**が増加
- 陸上養殖の市場拡大に伴い、大手企業や新規参入企業からの**陸上養殖に組み込む冷却装置の受注増加**が増収増益に寄与

セグメント売上高

+668百万円
121.0%

セグメント利益

+82百万円
160.6%

セグメント売上高

2,754百万円前期比 124.0%

セグメント利益

280百万円前期比 128.9%

- 船舶用エンジン市場及び工作機械関連市場の需要が堅調に推移していることから、当社グループが製造販売する**高圧に耐える精密部材に対する需要が拡大**
- 生産工程の見直しによる業務効率化により、**船舶関連の小型エンジン部品等の受注拡大に対応**が可能になったことで、増収・増益に

セグメント売上高

+534百万円
124.0%

2,220

2,754

2022/8期

2023/8期

セグメント利益

+63百万円
128.9%

217

280

2022/8期

2023/8期

セグメント売上高

445百万円

前期比 111.0%

セグメント利益

19百万円

前期比 74.4%

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、病院・福祉施設等の防災設備ニーズは徐々に持ち直しの傾向にあるものの、設備投資意欲は低調
- 病院や福祉施設をメインターゲットとするスプリンクラー消火装置ナイアスの受注は依然としてコロナ禍以前まで回復せず、低調に推移

セグメント売上高

+44百万円
111.0%

401

445

2022/8期

2023/8期

セグメント利益

▲7百万円
74.4%

26

19

2022/8期

2023/8期

新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金が増加

単位：百万円	2022/8期末	2023/8期末	前期末比	増減額	
流動資産	3,730	5,196	139.3%	1,466	自己資本比率
現預金	1,648	2,698	163.7%	1,050	
固定資産	4,410	4,581	103.9%	171	2023/8期 40.5%
有形固定資産	3,478	3,597	103.4%	119	
資産合計	8,141	9,777	120.1%	1,636	
流動負債	3,122	3,536	113.2%	414	ROA（総資本利益率）
固定負債	2,342	2,277	97.2%	△65	2022/8期 △0.29%
負債合計	5,465	5,814	106.4%	349	2023/8期 2.71%
株主資本	2,683	3,966	147.8%	1,283	
資本金	1,062	1,615	152.1%	553	
資本剰余金	920	1,473	160.1%	553	ROE（自己資本利益率）
利益剰余金	701	877	125.1%	176	2022/8期 △0.9%
純資産合計	2,675	3,963	148.1%	1,288	2023/8期 6.6%
負債純資産合計	8,141	9,777	120.1%	1,636	

新株予約権の行使により、財務活動によるCFが増加

	2022/8期	2023/8期	増減	内容
営業活動によるCF	314	251	△63	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の増減 △353 ・法人税等の支払 △84 ・税金等調整前当期純利益 412 ・減価償却費 169
投資活動によるCF	△260	△275	△15	<ul style="list-style-type: none"> ・定期預金の払い戻しによる収入 257 ・定期預金の預入による支出 △200 ・有形固定資産の取得による支出 △314
財務活動によるCF	△426	1,130	1,556	<ul style="list-style-type: none"> ・長期借入の返済による支出 △1,171 ・長期借入金による収入 1,067 ・株式の発行による収入 1,088
現金及び現金同等物の増減	△373	1,107	1,480	
現金及び現金同等物の期末残高	1,167	2,274	1,107	

- 会社概要
- 2023年8月期通期連結業績
- 今後の成長戦略
- 2024年8月期通期連結業績見通し
- Appendix

会社概要

参考資料、その他

中長期的な成長を目的に、ライツ・オファリングにて資金調達を実施

資金調達の目的

当社グループの経営資源を有効活用した新事業への取組み及び育成とM&A、資本・業務提携及び投融資のために必要な資金を確保し事業拡大を目指していく

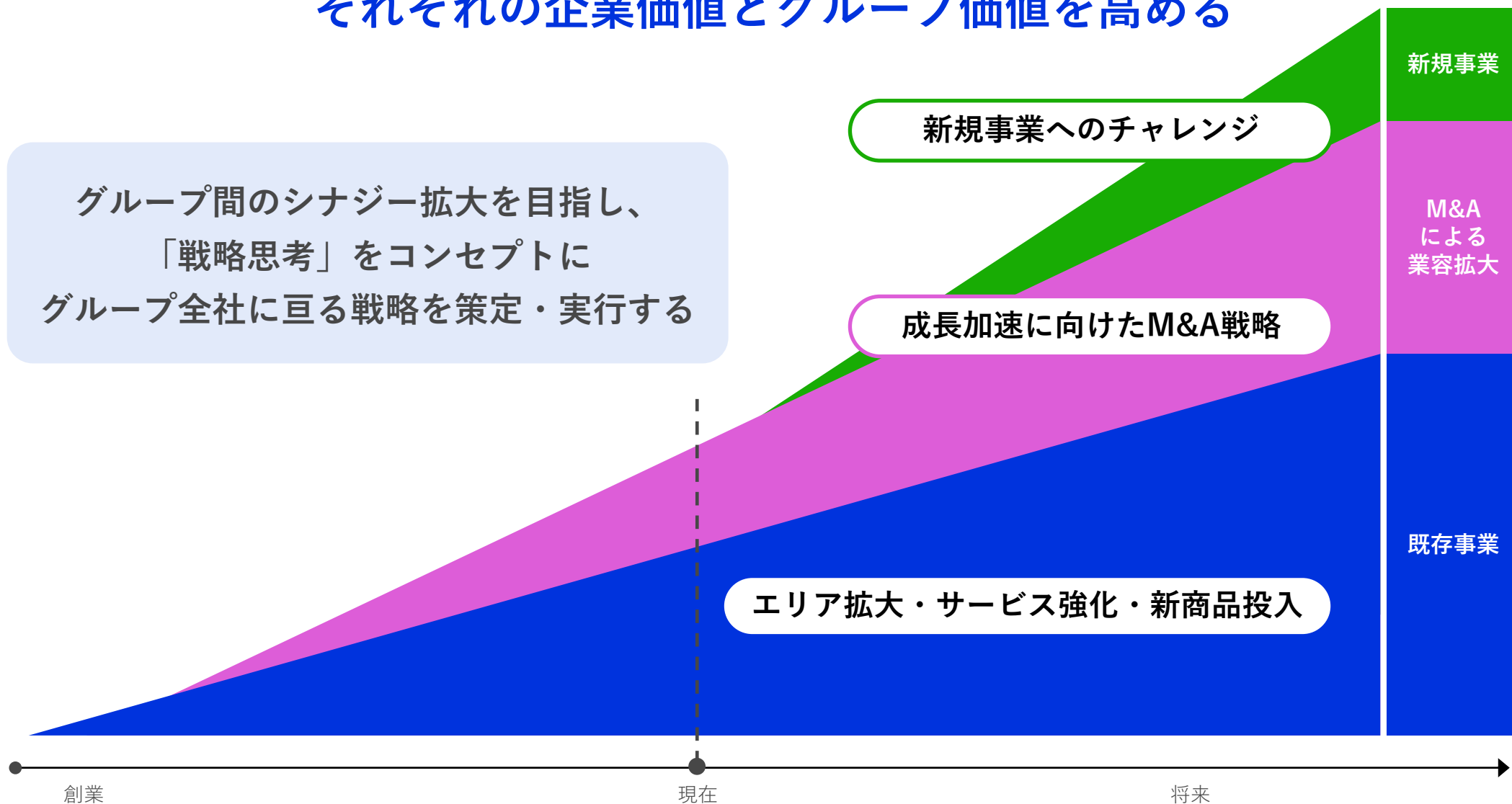
資金調達の用途

- ものづくり技術を活用した新規事業として水耕栽培事業のための栽培用装置の製造工場及び実証用温室（ビニールハウス）の建設を目的とした設備投資資金
- M&A、資本・業務提携及び投融資のための待機資金

本新株予約権の最終行使結果

本新株予約権の名称	ポエック株式会社 第4回新株予約権
権利行使期間	2023年7月27日から2023年8月25日まで
本新株予約権の発行総数	2,352,330個 (本新株予約権1個につき、普通株式1株)
権利行使期間中に行使された本新株予約権の個数	2,213,026個 (本新株予約権の発行総数に対する割合 94.08%)
交付株式数	2,213,026株
払込総額	1,106,513千円

ひと・みず・くうきにかかわる事業（ビジネス）に投資・育成し、 それぞれの企業価値とグループ価値を高める



既存事業を活用し、環境問題などの社会的課題を解決する 新規事業へチャレンジ

1

当社および当社グループの
技術が活用できる事業

当社の36年のポンプ事業の
技術および子会社が保有する
精密機器/電気機器/
熱交換器等の技術を
生かせる事業

2

社会的課題を
解決する事業

「脱炭素化」
「世界的な食糧危機への対策」
「地球温暖化対策」などの
社会的課題を解決する事業

3

新規性（競合がないまたは優位性）
がある事業

競合とは異なる視点で、
社会的課題を解決する
ソリューションを提供

水耕栽培農業向け栽培装置施設

園芸及び完全密閉型植物工場

水耕栽培農場

現在、注目されている施設 

- 気象条件に左右されないため食料の安定供給が可能
- 病害虫などのリスクが少ないため無農薬が可能

 ポエック株式会社

水耕栽培向け栽培装置を提供

- 当社と民間シンクタンクの連携で開発した機能性微細気泡（ファインバブル・ナノバブル）発生農業システムを使用
- LED照明、自動農薬散布、自動散水温度管理などの栽培システム全体を提供

ライツ・オフリングにて調達した資金にて、
栽培装置の製造設備への投資および実証用温室（ビニールハウス）の建設を予定

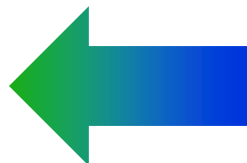
亜臨界水プラント向け、高温高圧器設備の提供

亜臨界水プロセスによる廃棄物処理施設

亜臨界水プラント

現在、注目されている施設 

- 亜臨界水処理技術による廃棄物処理施設
- 廃棄物を分解、無害化
- 従来の廃棄物焼却で問題とないっているダイオキシン・CO2を発生させない
- 焼却方式ではないため焼却灰などが残らず、処理後の廃棄物は有機肥料として活用可能に



子会社の（株）三和テスコが有する「溶接」「加工」「組立」の技術を活用し、プラントの心臓部ともいえる高温高圧設備を提供

トルクオン - ベルトコンベアローラ損傷検知装置 -

経済産業省がスマート保安技術として認定、
独立行政法人・製品評価技術基盤機構が「スマート保安技術カタログ」に公開(2023年5月12日)

新技術の概要

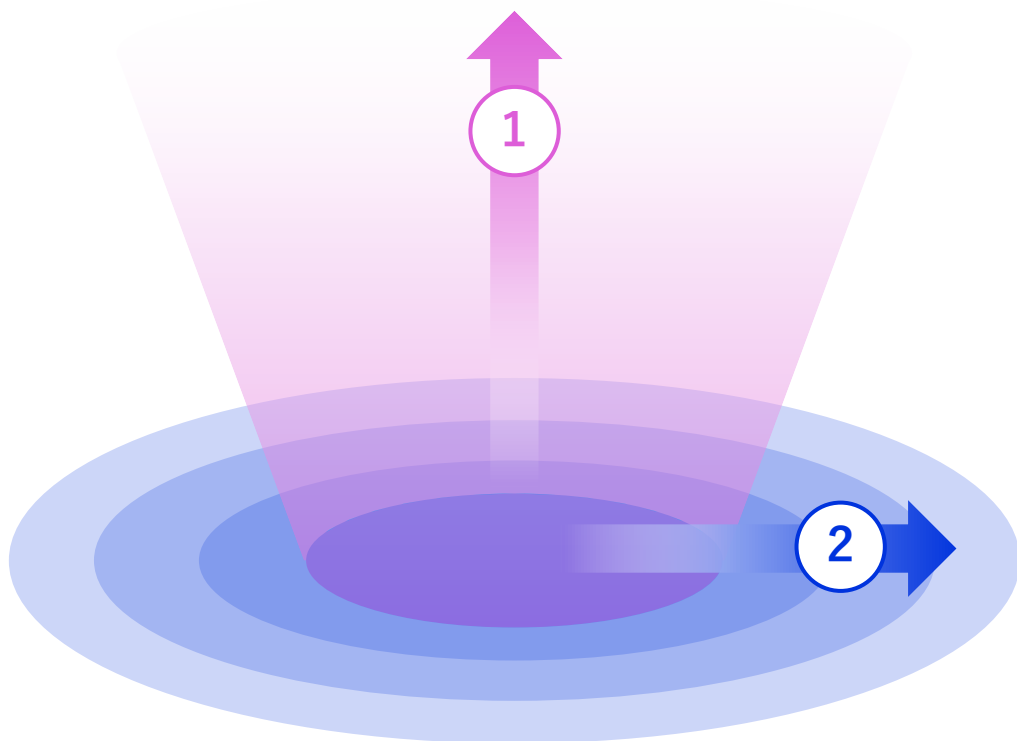
ベルトコンベアのベルトを支えるローラの軸にトルクセンサをセットし、ベルトコンベアローラの回転摩擦の変化をトルクセンサで読み取ることで、ベルトコンベアローラの異常を早期に検知

期待される効果

- ① ベルトコンベアの火災事故等を未然に防ぎ、安全な工場環境を維持
- ② ベルトコンベア点検の精度向上
- ③ 危険な場所での点検作業の削減による労務環境の改善
- ④ メンテナンスの合理化、人件費の削減

ベルトコンベアを有するバイオマス発電所、石炭火力発電所等への導入を目指し、
約1年間の実機による実証試験を経て、国内外での商品化を目指す

創業以来、子会社化や営業権取得等を通して事業を拡大
引き続きM&Aを活用し、グループ間シナジーの発揮による成長加速を目指す



1

M&Aによる成長

- 販路拡大
- 製造力拡大
- 既存事業の競争力強化につながる新規事業

2

オーガニック成長

- ポンプ事業の安定収益
- 成長事業の拡大

これまでに合計9件のM&Aを実行し、事業を拡大 技術を見つけ、育て、活かすM&A戦略

既存事業の強化・拡大に向けてのM&A

当社初のM&A - ポンプ事業強化

山尾産業(株)より水処理部門の営業権を取得し、ポンプ事業強化

1997

製造拠点の拡大 / 動力・重機等事業スタート

当社企画・開発製品の製造拠点とすることを目的として、独自の製缶・溶接技術を保有する(株)三和テスコを子会社化し、メーカー機能を強化

2003

製造技術力強化

グループの製造技術補完のため、一貫生産体制で高品質な精密機械加工及び熱処理に強みを持つ東洋精機産業(株)を子会社化

2008

販売チャネル拡大と人材強化

セイブ(株)より営業権を譲り受け、販売チャネルと人材を獲得

2011

「ナイアス」製造工程の一部内製化

過去より外注委託取引のあった三和テスコとの連携による経営効率化及び相乗効果を目的として(株)ミトを子会社化 (2020年に三和テスコと合併)

2019

関東地方進出の足掛かり

販路拡大、関東圏での受注拡大のため機器メンテナンス・修理に強みを持つ協立電機工業(株)を子会社化

新規事業展開に向けてのM&A

オゾン脱臭装置事業へ参入

(株)オーゼットよりオゾン脱臭装置の営業権、製造権、特許権を取得

2002

水中攪拌機製造技術の取得

オガタ工業(株)より水中攪拌機の営業権及び製造権を譲り受け、攪拌機製造技術を取得しメーカー機能を強化

2009

陸上養殖装置事業へ参入

製造面でのシナジーおよび販売面でのクロスセルを目的として、養殖設備製造ニッチトップ企業の(株)マリソリバーを子会社化

2021

M&A実施事例



海水の水温を調節する機器製作のメーカー
2021年9月 子会社化

- 大手企業や陸上養殖への新規参入企業からの受注が増加し、事業拡大中
- 需要に対しての生産が追いつかず、生産体制の整備を計画中

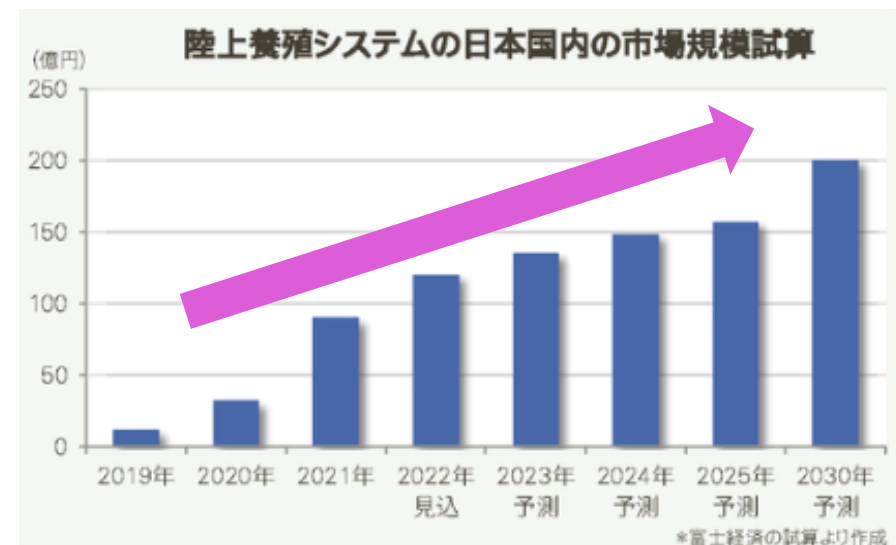


海水は塩分を含むので
製品が錆びやすく、つまりやすい



マリンリバーの強み

- 詰まりにくいチタン製の熱交換器を使用し、自社でチラーとして製造
- 技術にノウハウが必要なため、国内では競合他社がほとんどいないニッチトップ



ポンプ事業

ポンプのエキスパート

メンテナンスに強み

定期点検、故障対応、災害時対応など

ポンプに関する
ノウハウの蓄積

50年

組織的な
メンテナンス
体制

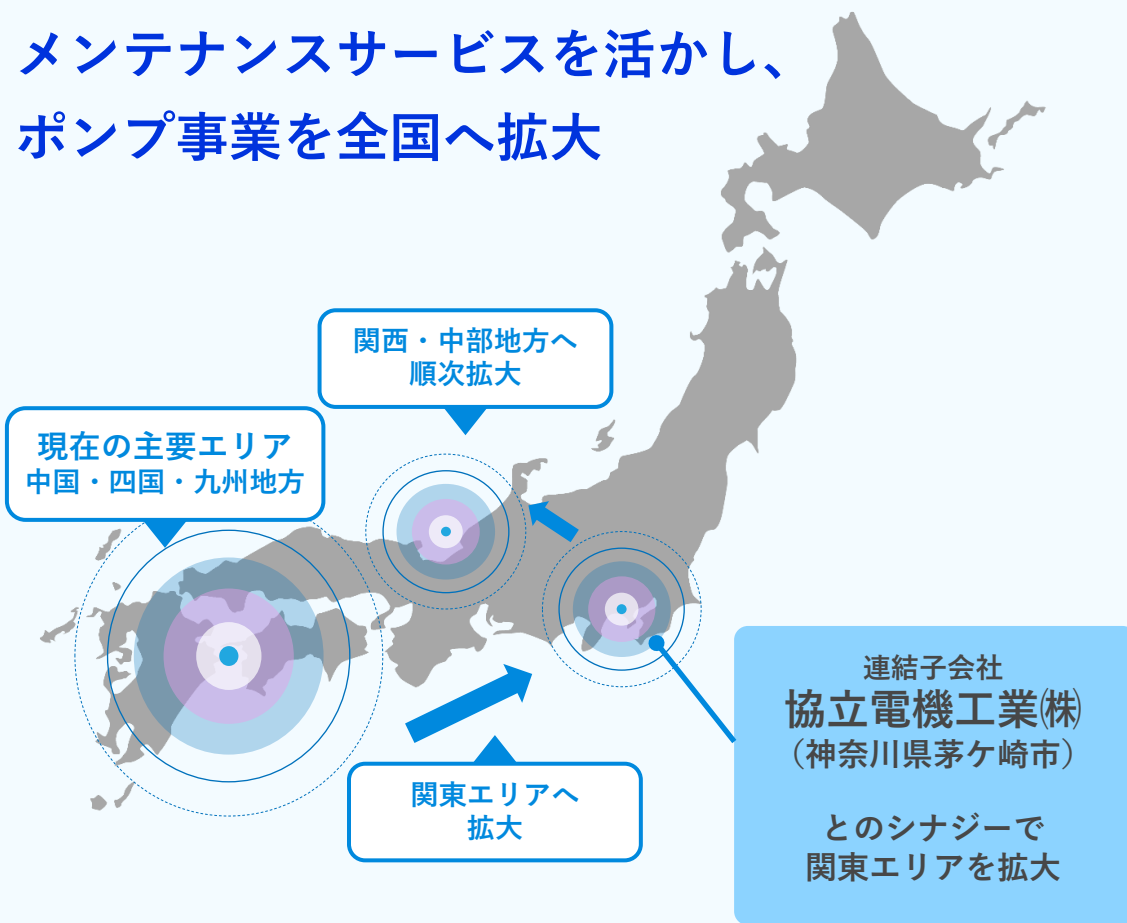
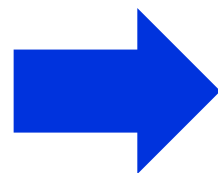
様々な
メーカーの
ポンプに
対応

新規販売
買替需要にも
対応



安定的に収益を確保できる
ストックモデルを確立

メンテナンスサービスを活かし、 ポンプ事業を全国へ拡大



社会課題解決型商品

オゾン脱臭・洗浄・殺菌システム

オゾンの力で強力除菌



感染症対策を背景とし、除菌設備への関心が上昇

新設需要・更新需要を確実に取り込む

景観配慮型防潮壁「SEAWALL」

高い強度を持った防潮壁用の枠付きアクリル製透明窓



- 災害対策への関心の高まりと継続的な営業活動により多数の引き合いあり、今後刈り取りフェーズへ移行
- 大型公共事業を中心に、引き続き受注獲得に注力

継続的成長を見据え新たな分野へアプローチ



船舶関連機器の製造

船舶のエンジンを支える
高い安全性と耐久性を追求した
商品を製造



動力関係及び工作機械関連部品の製造

大型船舶のディーゼルエンジンの心臓部
となる噴射装置のポンプから噴射の先端
のノズルまで、**高圧がかかる非常に厳し
い環境で使われる精密部品を製造**



- 市場ニーズに即応した船舶関連製品の投入に注力
- 船舶からの排気ガス規制に対応した**環境配慮型製品**の製造
- **造船業界以外の分野へのアプローチ**を推進

防災意識の高まりにより引き合い拡大、導入数拡大および販路拡大を目指す

防災・安全事業 消火装置「ナイアス」

世界初 圧力水槽方式（窒素加圧）

窒素ガスの圧力により、タンク内の水を安定供給する世界初の消火装置

災害時に電気・水道がストップしてもOK

窒素ガスの圧力で送水するので、電気や水道がストップしても確実にスプリンクラーを作動可能

水槽内の水は非常用にも使用可能

水槽内の水は窒素ガスで封印されているため、水が腐敗せず、地震・災害時には、非常用として使用が可能（飲用は不可）



- 病院・介護福祉施設向け導入拡大
- 新たな市場の開拓

- 燃料電池自動車（FCV）の燃料となる水素を補給する水素ステーション向け冷却装置としての需要増加
- 商業施設等大型施設への導入に向け、設計事務所との連携強化

- 会社概要
- 2023年8月期通期連結業績
- 今後の成長戦略
- 2024年8月期通期連結業績見通し

- Appendix

会社概要

当社の強み

参考資料、その他

売上高前期比113.4%、営業利益同148.8%の成長を目指す

単位：百万円

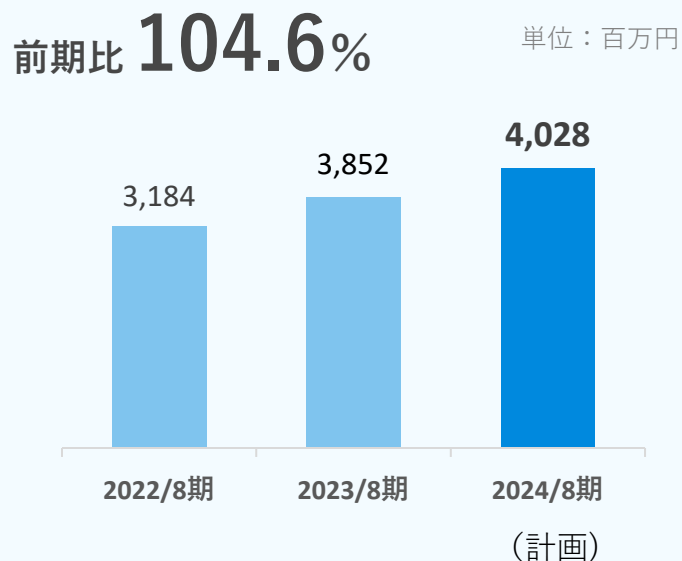
	2022/8期 実績		2023/8期 実績		2024/8期 業績予想		前期比
売上高	5,806	-	7,052	-	8,000	-	113.4%
環境・エネルギー	3,184	-	3,852	-	4,028	-	104.6%
動力・重機等	2,220	-	2,754	-	3,789	-	137.6%
防災・安全	401	-	445	-	182	-	41.0%
営業利益	274	4.7%	403	5.7%	600	7.5%	148.8%
経常利益	293	5.0%	419	6.0%	600	7.5%	142.9%
当期純利益	△23	-	265	3.8%	378	4.7%	142.4%
1株当たり 当期純利益（円）	△10.16	-	108.51	-	82.80	-	-

環境・エネルギー事業及び動力・重機事業が堅調に推移する見込み

環境・エネルギー事業

売上計画 **4,028**百万円

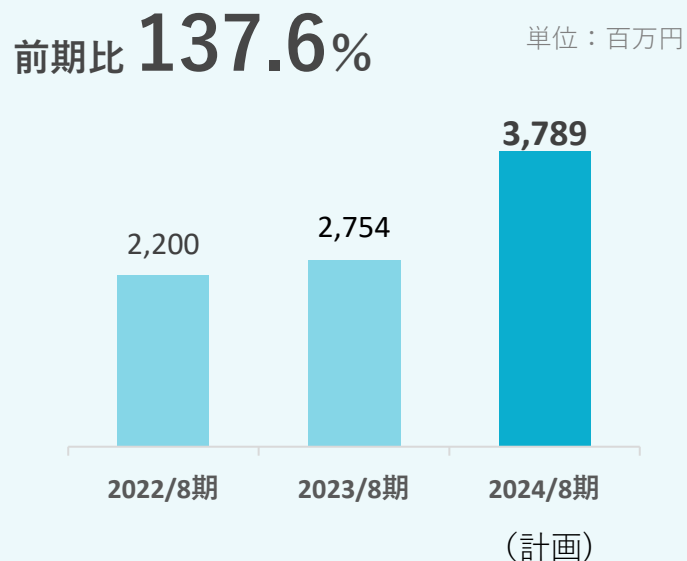
- ・ポンプ等の水処理機器及びその保守・メンテナンス等の需要は安定的に推移する見込み
- ・大型受注案件はブレ幅大きく計画に含めず



動力・重機等事業

売上計画 **3,789**百万円

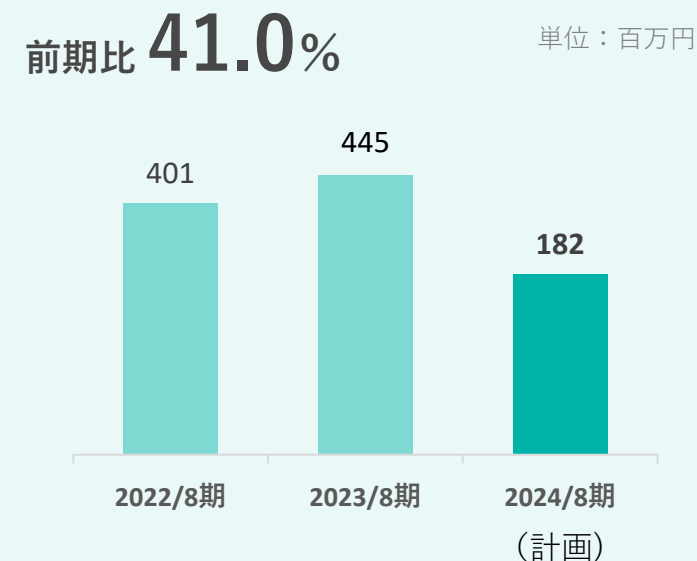
- ・船舶用エンジン台板や精密部品、プラント関連機器の受託製造については大手メーカーからの安定受注を見込む



防災・安全事業

売上計画 **182**百万円

- ・コロナウイルス感染被害は終息する傾向にあるものの、介護施設及び病院施設等の設備投資意欲が低調に推移する可能性あり
- ・2023年8月期の業況を踏まえ大幅の減収の見通し



18期連続で配当実施

株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、成長と株主還元を両立。

2023/8期は1株当たり年間配当金33円（普通配当28円及び特別配当5円）を実施。

2024/8期は財務体質の安定に配慮しつつ株主への還元を重視し43円に増配する予定。

	2022/8期	2023/8期	2024/8期 予想
1株当たり配当金	38円	33円	43円
連結配当性向	-	30.4%	51.9%

- 会社概要
- 2023年8月期通期連結業績
- 今後の成長戦略
- 2024年8月期通期連結業績見通し

- **Appendix**

会社概要

参考資料、その他

「お客様第一主義」

世界に通用する技術・商品の開発
社員一人一人、個性の尊重及び力の結集
社会の変化を先取りし、自らも進化する
これらのことを総合し、企業価値の増大を図る

ビジョン

誰もが欲しがる
「凄い技術とサービス」の
創造企業

ミッション

- 役職員とその家族の幸せ
- お客様の満足
- 株主への還元
- ステークホルダーと共に成長し良好な関係を維持
- 住みよい社会と環境

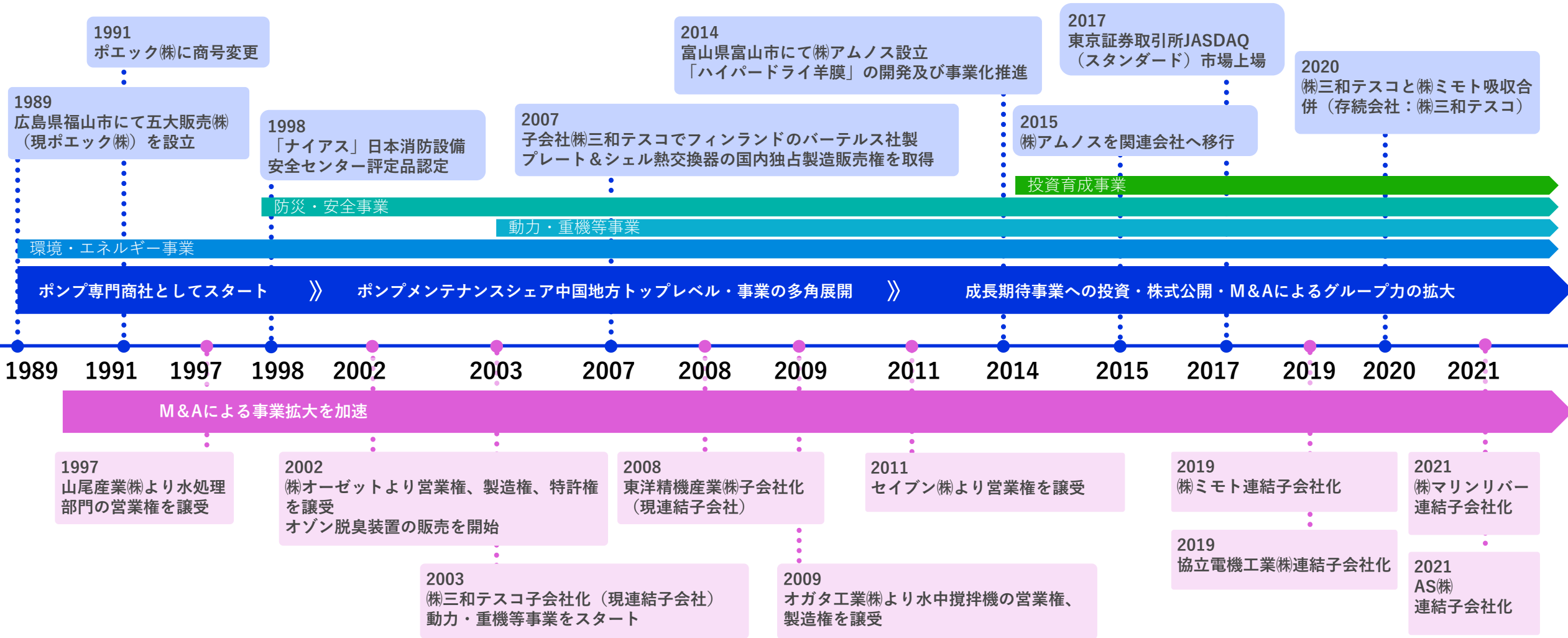
経営方針

投資・育成・成長サイクルを通じて
グループビジョンの実現に向けた
経営戦略を実行

約束

- コンプライアンスとモラルの向上
- 「安全」と「環境」への配慮
- 革新と変化へのチャレンジ

ポンプ専門商社として創業、現在では水と空気に重点を置いた 環境装置全体に分野を拡大



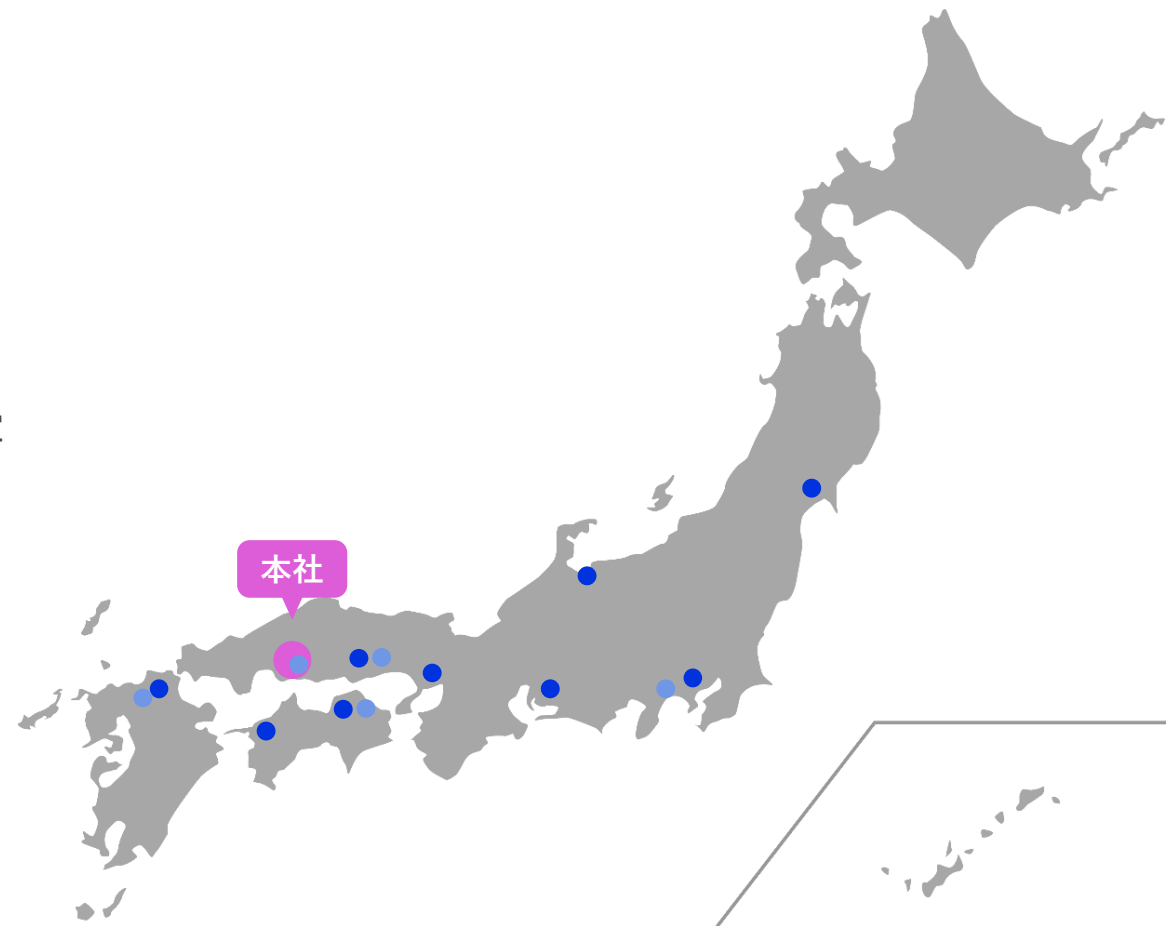
全国9営業所、2出張所、連結子会社5社で事業を展開

事業所

- 本社福山営業所 広島県福山市南蔵王町2-1-12
- 東京営業所 東京都中央区日本橋小舟町15-17 日本橋協栄ビル4F
- 仙台営業所 宮城県仙台市太白区西多賀3-7-38 ディライト西多賀103
- 北陸営業所 富山県富山市高田527 4F
- 名古屋営業所 愛知県清須市阿原星の宮189-1 アクティブ星の宮 A号室
- 大阪営業所 大阪府大阪市淀川区木川東3-5-10
- 岡山営業所 岡山県岡山市南区新保1308-2
- 広島営業所 広島県広島市西区中広町3-18-21 コーポラスナガイ102
- 福岡営業所 福岡県太宰府市国分1-1-41 オフィスパレア太宰府III 1号室
- 高松出張所 香川県高松市朝日町4-11-67
- 松山出張所 愛媛県松山市中村5-3-15 マッピーテナント B号室

連結子会社

- 株式会社三和テスコ 香川県高松市 出資率100%
- 東洋精機産業株式会社 岡山県岡山市 出資率100%
- 協立電機工業株式会社 神奈川県茅ヶ崎市 出資率100%
- 株式会社マリンリバー 福岡県糟屋郡 出資率100%
- PBS株式会社 富山県下新川郡 出資率100%



- 会社概要
- 2023年8月期通期連結業績
- 今後の成長戦略
- 2024年8月期通期連結業績見通し

- **Appendix**

会社概要

参考資料、その他

高い専門性 × 対応力 × エリア拡大 = ポエックの総合力



豊富な経験に裏付けされたポンプに関する高い専門性

幅広い分野からの依頼に応えてきた経験豊富な熟練技術者が多く在籍し、高い専門知識を保有

あらゆるポンプを知り尽くした幅広い対応力

ビル、工場、病院、学校、マンションなどの各種施設、
汚水処理用、防災用、排水用、スプリンクラー用など、各用途
また全メーカーのポンプにワンストップで対応可能
新規販売・買い替え・修理メンテナンスの全てのニーズに対し
スピーディーにソリューションを提供

広範囲をカバーする組織的なメンテナンス体制

全国 9事業所、2出張所、連結子会社で展開
今後さらにカバーエリアを拡大

革新的な環境・防災機器により持続可能な社会の実現に貢献

- 政府の掲げる防災・減災、国土強靱化対策需要の高まりにより、今後拡大が期待される市場
- 気候変動の影響により激甚化・頻発化する気象災害や、切迫化する大規模地震に備え、被害を防止・最小化するための環境・防災機器の開発・製造・販売を推進

停電・断水時も作動する消火装置「ナイアス」

消防法によりスプリンクラー消火設備の設置義務のある病院や福祉施設を中心に販売拡大

BCP

防災



福祉施設（スプリンクラー設備）

販売開始以来
累計販売台数

790 台超

累計販売金額

4,568 百万円

海沿いの景観と安全を守る防潮壁「SEAWALL」

推進協議会の代表企業として取扱強化
港湾の津波対策事業の推進に伴い受注増加

津波

高潮



兵庫県芦屋市 南芦屋浜

2018年販売開始以来
累計販売金額

639 百万円

電力を使用せず、窒素ガスで加圧することで安定した散水を可能にし、 災害時に水道や電気が停止しても作動

世界初の 圧力水槽方式（窒素加圧）

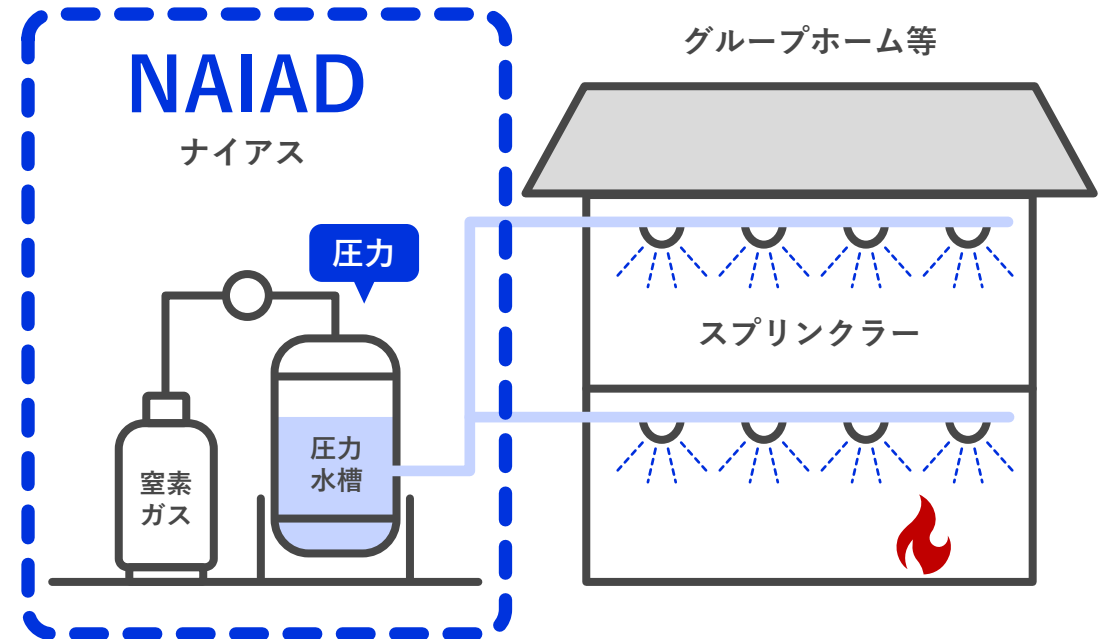
窒素ガスの圧力により、タンク内の水を安定供給する世界初の消火装置

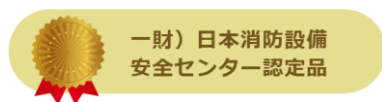
災害時に電気・水道がストップしてもOK

窒素ガスの圧力で送水するため、停電・断水時も確実にスプリンクラーを作動させることが可能

水槽内の水は非常用にも使用可能

水槽内の水は窒素ガスで封印されているため、水が腐敗せず、地震・災害時には、非常用として使用が可能（飲用は不可）





1998/1	当社製品「ナイアス」	一般財団法人日本消防設備安全センター評定品
2002/5	当社製品「ナイアス」	第10回中国地域ニュービジネス大賞を受賞
2003/1	当社製品「ナイアス」	第13回ニュービジネス大賞優秀賞を受賞
2006/7	当社製品「環銘」	経済産業省新連携事業認定
2009/9	当社製品「ナイアス」 NAP-M2400S	日本消防設備安全センター認定品※1
2012/2	当社製品「ナイアス」	第4回「ものづくり日本大賞」優秀賞受賞

※1 2009年9月以降、「ナイアス」NAP13N・NAP-M1200S・NAP6N・NAP-M2400・NAP16N・NAP20N・NAP-M3200が順次、財団法人日本消防設備安全センターの認定品となる

水辺の景観に配慮しながら、津波や高潮発生時に防潮壁の向こう側の様子を伝え、 地域住民の安全を守る

防潮壁設置数増加の背景

東日本大震災以降、水辺の安全確保に対する関心の高まりに伴い、想定水位が従来以上に高く設定され、防潮壁設置数が増加。

防潮壁設置による課題

- 圧迫感のある壁により景観を損なわれる
- 水辺情報の遮断が避難の遅れを引き起こす危険性

ポエックのソリューション

津波対策の問題と地域住民のニーズに応え、
景観と命を守る景観配慮型防潮壁「SEAWALL」

IRメール配信サービスについて

ご登録いただくと、当社ウェブサイトに掲載される最新のIR情報を公表と同時にメール受信いただけます。



IRメール配信登録

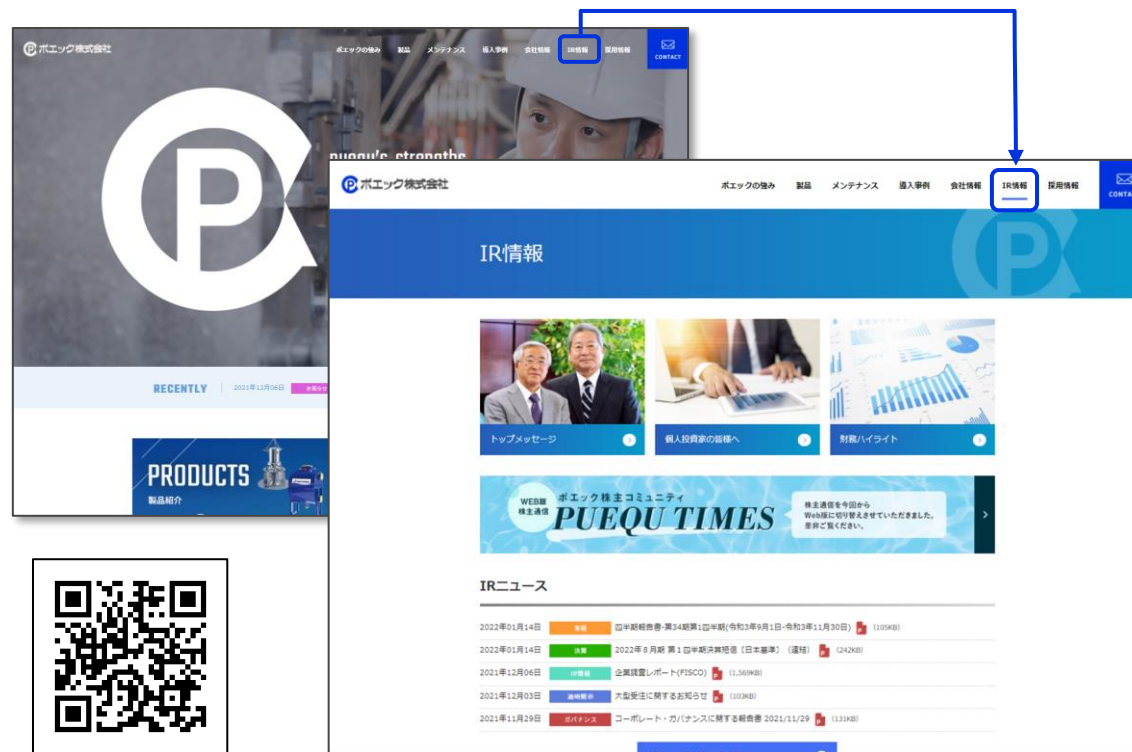
<https://www.magicalir.net/9264/mail/index.php>

Web版株主通信 PUEQU TIMESについて

環境負荷低減の観点より、2021年8月期期末より株主通信の紙面印刷・郵送を取り止め、当社ウェブサイトへの掲載に切り替えました。年2回（期末・中間）更新しておりますので、ぜひご覧下さい。

当社ウェブサイトIR情報ページについて

当社についてよりご理解を深めていただけるよう、IR情報ページにて積極的に情報開示を行っております。



IR情報トップページ

<https://www.puequ.co.jp/ja/ir.html>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがございます。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

なお、本資料の金額及び比率については、特に記載のない場合、以下のとおりです。

表示単位：百万円（単位未満切捨）

比率については円単位にて算出し、小数第一位未満を四捨五入

